[redacted]

[redacted]

4　単元名　　きずなを読む「字のない葉書」～作品の魅力を伝え合おう～（光村図書）

5　単元について

⑴　単元観

本単元は，主として中学校学習指導要領国語科第２学年の指導事項，「Ｃ　読むこと」の次の内容を受けて設定されている。

「Ｃ　読むこと」 （１）イ　文章全体と部分との関係，例示や描写の効果，登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。 （１）ウ　文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

本単元で付けたい力は，「表現に着目して，登場人物の人柄や心情，筆者の思いを読み取るとともに，構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめる力」である。

本教材「字のない葉書」は，中学校で学習する初めての随筆である。放送作家であり，小説・随筆にも多くの作品を残した向田邦子氏の作品で，作品全体に筆者の父の思い出がユーモアを込めて綴られている。作品は大きく二つの部分から構成されており，前半は筆者が女学校一年生で初めて親元を離れたときの「父からの手紙」にまつわる思い出で，後半は末の妹が疎開したとき父がもたせた「字のない葉書」にまつわる思い出である。これらの思い出を通して，暴君で表向きは家族に厳しい父の，普段の生活からは決してうかがい知れない子どもへの深い愛情や家族のきずなが見えてくる。また，作品には，それらを懐かしく回想する筆者のこまやかな心が脈々と流れており，今まで知ることのなかった父の優しさや深い愛情を知った筆者の喜びや感動，そして今は亡き父への深い思慕と敬意を，簡潔な文体から読み取ることができる。この筆者の姿にもまた，家族のきずなの深さがうかがえる。家族の温かさや，きずなとは何かを考えさせるにふさわしい教材である。

表現も巧みで，放送作家らしいわかりやすい言葉遣いとテンポよい文章で，教科書でもわずか４ページの短い作品ではあるが，一気に読ませてしまううまさがある。簡潔な表現，具体的数字の多用，対比的な形容表現，人物を的確に表現する語句，一文の長短のめりはりなど，効果的な表現が随所に見られる。また構成も見事である。作品は二つの思い出から構成されているが，題名「字のない葉書」は言うまでもなく後半の話であり，前半は後半の伏線として語られ，父の優しさや愛情の深さを際立たせている。内容とともに，構成や展開，表現の仕方とその効果について考えることができる教材である。

(2) 生徒観

中学校入学時に実施した標準学力調査の結果から，本学年は，文学的な文章において，「場面の展開を的確にとらえ，登場人物の心情を表す表現に着目して，心情を読み取る力」に課題があることが明らかとなった。そこで，課題となる力の育成を図るために，①登場人物の心情を表す表現に着目して読ませる，②登場人物の心情について，表現を根拠に自分の考えをまとめさせる，③登場人物の心情について意見を交流させ，考えを深めさせる，これらの指導を繰り返し行ってきた。

２学年時の標準学力調査では，文学作品の読み取りの正答率は，目標値を8.4ポイント上回り，１年時よりも伸びてきている。しかし，登場人物の心情について，文章中の表現を根拠に自分の考えをまとめる力の定着には課題がみられる。このことは，今年度６月に実施した「基礎・基本」定着状況調査からも明らかとなった。

表１　平成24年度「基礎･基本」定着状況調査通過率　文学作品の読み取り

（対象生徒 甲山中学校第２学年 ４３名）

問題	出　題　内　容　（ね　ら　い）	県（%）	本校（%）
三3(1)	文章の展開に即して登場人物の心情を的確に捉えることができる。	88.5	93.0
3(2)	文章の展開に即して内容を正確に捉えることができる。	90.3	86.0
3(3)	文章の展開に即して登場人物の心情を的確に捉えることができる。	57.1	65.1

表１に示すように，三３（３）の，文章の展開に即して登場人物の心情を読み取り，文章中の言葉を使って条件に従って記述する問題の通過率は 65.1%で，７割に達していない。しかも，そのうちの正答率は 44.2%で，20.9%が準正答であった。誤答を分析してみると，34.9%のうち27.9%は心情の表れている表現に着目することはできているが，キーワードとなる言葉を的確にとらえ，それらを使って指定字数内で適切にまとめることができていなかった。4.7%は，文章中の言葉を使わずにまとめており，文末も条件を満たすものになっていなかった。2.3%の生徒は，心情が表れている表現をとらえて心情を読み取ることができていない。教科学習への意識調査においても，「国語の授業では，場面の様子や移り変わり，人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら，物語などの文章を読んでいます。」という項目に対して，よくあてはまると回答した生徒の割合は 27.9%と低く，ややあてはまるが 65.1%，あまりあてはまらないが 7.0%であった。文章中の表現を根拠に心情を読み取ることが，生徒の中に十分定着していない状況がある。

以上のことから，本学年は，文学的な文章において，心情を表す表現に着目して登場人物の心情を読み取り，自分の言葉でまとめ表現する力の定着が不十分であるといえる。心情が表れている表現を手掛かりに登場人物の心情をとらえさせ，根拠となる部分をあげてまとめさせる指導の充実を図っていく必要がある。

文学的文章において文章構成や表現に着目した学習については，１学年時にも行っている。少しずつ文章の構成や展開，表現の仕方をとらえることができるようになってきつつあるが，その工夫や効果について，根拠を明確にして自分の考えをまとめることについては，これから学習していくところである。第２学年で，初めてその学習を行うのが本教材となる。

本学級の生徒は，授業に対しては全体的に落ち着いて取り組んでいる。しかし，自分の考えを書いたり，発表したりすることに抵抗を持っている生徒も多く，徐々に発言は増えてきているものの，解釈や熟考・評価に関する発問や，読みを深めたり，広げたりする場面では，思考がなかなか深まりにくく，発言者も偏る傾向にある。活発な意見交流を行い，練り合うことによって思考を深めることができるよう，集団思考場面の充実も図っていかなければならない。

(3) 指導観

① 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として，「『字のない葉書』の作品の魅力を交流する」という言語活動を設定する。（関連：言語活動例ア「詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について感想を交流すること。」）この作品が多くの人に読まれてきたのはどのような魅力があるからなのか，内容，構成や展開，表現の仕方などの視点から，生徒一人一人が「字のない葉書」の作品の良さをとらえ，「『字のない葉書』作品の魅力を交流会で伝え合う」という見通しを持たせることで，目的意識を持って読ませたい。

作品の魅力を自分の視点で表現するためには，生徒たちは必然的に，表現に着目して登場人物の心情や筆者の思いを読み取ったり，構成や表現の仕方に着目してその工夫や効果を考えたりしなければならなくなる。従って，この言語活動は，生徒を作品と積極的に関わらせながら付けたい力を付けさせ，思考を深めさせることができる言語活動であると考える。これは，３学年の「物語や小説などを読んで批評する」言語活動に繋がっていくものである。

② 指導について

指導にあたっては，１学年時より継続している次のａ～ｃの指導の充実を図る。

ａ）音読を繰り返し行い，どのような表現が登場人物の心情を表すかを考えさせ，登場人物の心情が表れている表現（直接的な心情表現や間接的な心情表現）に印を付けながら読ませる。

ｂ）登場人物の心情について，文章中の表現を根拠にして自分の考えをまとめさせる。

・条件を提示し，条件に従って自分の考えをまとめさせる。

・個人思考の時間を確保し，自分でしっかり考えてワークシート等に書かせる。

ｃ）登場人物の心情について，自分の考えとその根拠となる表現を交流させ，考えを深めさせる。

・小集団思考場面では，目的を明確にし，役割を決めて活動させる。全体思考場面では，補助発問も工夫し，個人思考場面の机間指導で把握した生徒の意見を意図的指名に活かして，思考を深めさせる。

・交流後，交流の内容を活かして再思考させ，深まった自分の考えをまとめさせる。

まず，登場人物の言動や様子を描いた表現に着目させ，特に「日常的な父親像」と「二つの思い出（エピソード）に見られる父親像」とを対比させながら，父親の娘に対する愛情の深さを的確に読み取らせたい。そのうえで，筆者の父親に対する思いをとらえさせる。筆者の立場に立って「『私』（筆者）から父への手紙」を書くという学習活動を設定し，作品中から読み取った筆者の父に対する思いを自分の言葉で表現することを通して，読みを深めさせたい。

さらに，内容だけでなく，作品の構成や展開，表現の仕方をとらえさせ，筆者の工夫を考えさせる。特に構成については，前半部分と後半部分を読み比べ，文章中の表現を根拠に，この作品に前半部分がなぜ必要なのか，前半部分がどのような効果をあげているのか，また，後半部分の最後の段落は作品にどのような効果をもたらしているのかを考えさせ，構成の工夫をまとめさせたい。そして，最後にこれまでの学習を踏まえて，一人一人がとらえた「字のない葉書」の作品の魅力をまとめさせ，交流によって深めさせたい。

その他，付けたい力を育てるための手立てとして，次の２点の指導も継続する。

ｄ）意欲をもって取り組めるよう，初発の感想等，生徒の疑問からの課題設定や生徒実態にあった課題設定を行う。

ｅ）ワークシートの工夫を行う。

・個人思考，集団思考（小集団，全体），個人思考といった学習段階を通して，各自の理解や思考の深まりがとらえられるように記述できるもの，構造的で，全体が俯瞰できるものにする。

・書くポイントを明確にして書かせ，書くことが苦手な生徒への支援として，フレームワークとなる表現形式の提示を行う。

6　単元の目標

○作品の魅力について自分の考えを持ち，交流して深めようとする。

（国語への関心・意欲・態度）

◎表現に着目して登場人物の人柄や心情をとらえ，そこに込められた筆者の思いを読み取ることができる。（C　読むこと（1）イ）

◎文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。（C　読むこと（1）ウ）

○ 慣用的な表現や多義的な意味を表す語句に注意して読むことができる。

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（イ））

7　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①作品の魅力について自分の考えを持ち，交流して深めようとしている。	①人物の言動や様子を描いた表現に着目して，登場人物の人柄や心情をとらえ，父親に対する筆者の思いを読み取っている。（イ） ②作品の構成や展開，表現の仕方をとらえ，その工夫や効果について，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（ウ）	①慣用的な表現や多義的な意味を表す語句の意味・用法に注意して読んでいる。（1）イ（イ）

8　単元指導計画（全９時間）

次	学習内容（時数）	評価				
		関	読	言	評価規準	評価方法
一	「作品の魅力を交流会で伝え合う」という単元の目標を確認し，見通しを立てる。 随筆の特徴を押さえ，作品を通読しておおまかな内容をとらえ，初発の感想を書く。感想をもとに，学習課題を設定する。 注意する語句の意味調べをし，文脈上の意味を確認する。（1）			◎	【言語についての知識・理解・技能】①慣用的な表現や多義的な意味を表す語句の意味・用法に注意して読んでいる。	観察 ノート

二	登場人物の言動や様子を描いた表現に着目して，その人柄や心情を読み取る。 ・前半部分，筆者が初めて親元を離れたときの「父からの手紙」から，父親の言動や様子を描いた表現に着目して，父親の人柄や心情を読み取る。（1）		◎		【読む能力】① 前半「父からの手紙」の部分と後半「字のない葉書」の部分から，登場人物の言動や様子を描いた表現に着目して，父親の人柄や心情，家族それぞれの心情を読み取っている。	観察 ワークシート
	・後半部分，末の妹が疎開したときの「字のない葉書」の部分から，「終戦の年」の家族の置かれた状況を把握し，登場人物の言動や様子を描いた表現に着目して，父親の人柄や心情，家族それぞれの心情を読み取る。（2）		◎			
	父親に対する筆者の思いを読み取り，筆者の立場に立って「『私』（筆者）から父への手紙」を書く。（1）		◎		【読む能力】① 筆者が父親をどのように見ていたかがわかる表現を抜き出し，作品中から読み取った父親に対する筆者の思いを，「『私』（筆者）から父への手紙」の形で，まとめている。	観察 ワークシート
	作品の構成や展開，表現の仕方をとらえ，その工夫や効果について自分の考えをまとめる。（2） 【本時１／２】		◎		【読む能力】② 作品の構成や展開，表現の仕方をとらえ，その工夫や効果について考え，根拠を明確にしてまとめている。	観察 ワークシート
三	「『字のない葉書』の作品の魅力を伝え合おう」として，内容，構成や展開，表現の仕方などの視点から，作品の魅力について自分の考えをまとめ，交流する。（2）	◎			【国語への関心・意欲・態度】① 内容，構成や展開，表現の仕方などの視点から，「字のない葉書」の作品の魅力について，自分の考えを持ち，交流して深めようとしている。	観察 ワークシート

9　本時の目標

交流会に向けて，作品の構成や展開の工夫，効果についてとらえることができる。

10　準備物

ワークシート

11　本時の評価規準

文章中の表現を根拠に，作品の構成や展開の工夫，効果について考え，まとめている。

12　学習の展開（本時６／９時間）

	学習活動		指導上の留意点	評価規準	評価方法
	教師の働き掛け	生徒の反応			
導入	**１　本時の目標を確認する。**				
	・前時の学習内容を想起させ，既習事項の確認をする。 (1) 課題設定 ・本時の課題を確認させ，単元の見通しを持たせる。	○前時の振り返りをする。 ○本時の課題を確認し，単元の見通しを立てる。			
	「字のない葉書」の作品の構成や展開の工夫，効果について考えよう。				
展開	**２　作品の構成や展開の工夫，効果について考える。**				
	・「字のない葉書」の作品の構成を確認させる。	○作品の構成を確認する。 ・前半　「父からの手紙」 筆者が女学校一年生で初めて親元を離れたときの「父からの手紙」にまつわる思い出 ・後半　「字のない葉書」 末の妹が疎開したとき，父がもたせた「字のない葉書」にまつわる思い出	・父にまつわる二つの思い出（エピソード）で構成されていること，最も筆者の心に残るものは題名にもなっている「字のない葉書」の思い出であることを押さえる。		
	(2) 個人思考 **◎この作品に前半部分はなぜ必要なのだろうか。前半部分がどのような効果をあげているか考えよう。** **◎後半部分の最後の段落「あれから三十一年……私は一度も見ていない。」は，この作品にどのような効果をもたらしているか考えよう。**	○この作品に前半部分が必要な理由（前半部分の効果）を考えて，ワークシートに書く。 ○最後の段落があることの効果を考えて，ワークシートに書く。	情報を的確に分析する技術 ・前半部分と後半部分とを比較して共通点や相違点をとらえさせる。前半部分がある場合とない場合とでは，どのような違いがあるかを考えさせ，文章中の表現を根拠に，前半部分が必要な理由（前半部分の効果）を記述させる。 ・後半部分に最後の段落がなかった場合と比較して，効果を考えさせ，記述させる。 書く活動 ・机間指導を行い個別に支援を行う。		

	(3) 集団思考 ・グループの中で意見を交流させ，話し合わせる。 ・学級全体で意見を交流させ，話し合わせる。 **◎この作品に前半部分はなぜ必要なのだろうか。前半部分はどのような効果をあげているのだろうか。**	受け答えをする技術 ○書いたものをもとに意見を交流し，話し合う。 ・ありのままの父の姿（優しいだけではなく厳しい）が表現される。 ・父の子を思う愛情の深さや優しさが強調される。 前半でも後半でも優しい父の姿を描く。 前半の暴君で反面照れ性の父の姿と，後半の声を上げて泣く父の姿とのギャップが，父の優しさを際立たせる。 ・筆者（私）の父への愛情，思いが強調される。 ・前半があることによって，最も心に残るものとして後半で語られる「あの葉書」が強調される。読者を作品に引き込む。 ⇧ 前半　「父からの手紙」 〈日常の父の姿〉 暴君 呼び捨て 罵声やげんこつは日常のこと ふんどし一つで家じゅうを歩き回る 大酒飲み かんしゃくを起こして，母や子供たちに手を上げる 照れ性 〈手紙に表れる父〉 筆まめ 三日にあげず手紙をよこした 一日に二通 威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親 優しい父の姿 後半　「字のない葉書」 おびただしい葉書にきちょうめんな筆で自分宛ての宛名を書いた。	・根拠となる表現を挙げながら，自分の考えを発表させる。 ・意見交流により他者の意見を知り，自分の考えと比較して自分の考えを深めさせる。 ・後半部分だけでは伝わらないこと，前半部分があるからこそ伝わることを考えさせる。		

	◎最後の段落「あれから三十一年……私は一度も見ていない。」は，この作品にどのような効果をもたらしているのだろうか。	かさ高な葉書の束はだしで表へ飛び出した。 やせた妹の肩を抱き，声を上げて泣いた。 ・形としてはなくなってしまったが，三十年以上たっても愛情に満ちた父の姿は，心の奥底に刻み込まれていることを感じさせる。 ・父に近い年になって，改めて父の大きさ，父の愛情をしみじみと感じられるようになったことが伝わってくる。 ・文章全体のまとめとなっており，「あれから三十一年」という言葉が文章に重みをそえている。			
	(4) 個人思考 ・意見交流をもとに，作品の構成や展開の工夫，効果について，自分の考えをまとめさせる。	○意見交流をもとに，前半部分の効果，最後の段落の効果など，作品の構成や展開の工夫，効果について，自分の考えをワークシートにまとめる。 前半部分 ・父の子どもへの愛情の深さ，優しさを強調 ・父のありのままの姿を表現 最後の段落 ・愛情に満ちた父の姿が心に刻み込まれている ・父に近い年になって，改めて父の大きさ，父の愛情をしみじみと感じる	書く活動 ・机間指導を行い個別に支援を行う。	文章中の表現を根拠に，作品の構成や展開の工夫，効果について考え，まとめている。	観察 ワークシート
まとめ	**3　学習のまとめと自己評価をする。**				
	(5) まとめ ・本時のまとめをする。 ・本時を振り返り，自己評価をさせる。	○自己評価カードに記入する。			